

目次

- 普通選挙法の公布 [十四年五月一日] 02
- 佐渡立憲青年党大会 [十四年七月二日] 02
- 立憲青年党の演説會 [十四年七月十二日] 02
- 第二十五次加藤（第二次）内閣成立 [十四年八月二日] 03
- 久邇宮殿下と山本悌二郎 [十四年八月十二日] 03
- 水野鍊太郎来郡 [十四年八月二十三日] 03
- 新潟政友倶楽部の発会式 [十四年十月五日] 03
- 山本悌二郎の渡支 [十四年十月三十日] 04
- 佐渡郡町村長会々長 [十四年十月 日] 04
- 佐渡新報の発刊 [十四年十一月十日] 04
- 佐渡タイムス [十四年十一月二十一日] 05
- 秦豊助の遊説 [十四年十一月十四日] 05
- 政友倶楽部秋季總會 [十四年十一月二十一日] 05
- 佐渡立憲青年党の幹部会 [十四年十一月二十一日] 05
- 立憲農民党組織 [十四年十一月二十七日] 06
- 佐渡実農倶楽部の大会 [十四年十二月二十六日] 06
- 第二十六次若槻内閣成立 [十五年十一月二十八日] 06
- 新潟に於ける政友会と政友本党の合同 [十五年二月十一日] 06
- 立憲農民党結党式 [十五年三月二十四日] 07
- 山本悌二郎政友会総務となる [十五年三月二十七日] 08
- 佐渡タイムスの擬國會と山本悌二郎 [十五年四月二十二日] 08
- 実農倶楽部春季大会 [十五年四月二十二日] 08
- 水谷松次の政友会脱党 [十五年五月] 08
- 青木永太郎の脱党 [十五年五月三十日] 09
- 郡吏惜別会 [十五年六月十九日] 09
- 鈴木義隆等政友本党新潟支部を組織す [十五年九月二十二日] 09
- 政友倶楽部の秋季總會 [十五年十月十一日] 09
- 大正天皇崩御 [十五年十二月二十五日] 11

佐渡政党史稿、大正政党史之巻、第四号

自大正十四年、至大正十五年

●普通選挙法の公布 [十四年五月一日]

普通選挙法は十四年五月一日法律第四十七号を以て公布せられたが此普通選挙の獲得については明治三十五年頃より運動が行われた 殊に此法案上程の爲め第四十二期議会は解散となったが此選挙案は憲政會及革新俱樂部が主として運動し政友会は尚早説を採て居たのだ 然るに此議会には政府は協力内閣であった関係から十五年二月二十一日の衆議院で満場一致を以て通過することになったのだ

●佐渡立憲青年党大会 [十四年七月二日]

佐渡立憲青年党幹部 松瀬教五郎、森守蔵、塚原徹、其他数名は十四年七月二日夜松瀬方に会合して、本月十二日魚沼立憲青年党幹事長代議士 関矢孫一、新潟同幹事長法学士弁護士 長谷川寛、新潟市会議員 知野勝弥、同 高木来嘉、新潟日曜新聞社 吉川大介等を聘し、本郡に於て縣下大会を催したる後、郡内各所に演説會を開くことを決議した

斯て縣下の立憲青年党大会は七月十二日予定の関矢、長谷川、吉川及松井郡治、新潟立憲青年党幹事井上義仲を聘し両津町劇場に於て開會した、來會者約八百人 本間久右衛門登壇して護憲三派の勝利と青年党大会開催の報告を述べ小池裕を座長に推し左の宣言及決議を可決した

宣 言

今や世界ノ大勢ハ競フテ新機運ニ向ツテ躍動シツヽアルハ勿論各國挙ツテ一新記之ヲ画シ国民生活ノ基礎ヲ確立セシコトニ汲々タリ、然ルニ我国現下ノ状勢ハ国民ノ思想日ニ險惡ヲ加ヘ道德日ニ馳廢シ紺民ハ立憲政治ノ妙諦タル政治的生活ノ真蹟ヲ挙グルヲ知ラズ国家ノ前途殆ニ憂慮ニ堪ヘザルナリ、此秋ニ當リ吾人ハ剛健質實ノ氣象ヲ以テ立憲思想ノ涵養ニ努メ旗幟ヲ翻シ嚴正ナル批判者ヲ以テ自任シ人心ヲ作興シ革新ノ大道ヲ拓キ國策ノ樹立ニシテ國家ヲ泰山ノ安キニ主シトスルハ是レ正ニ吾人ノ責任タラズンバアラザルナリ、爰ニ於テヤ吾人ハ今ヤ一國ノ偷安ヲ施サズ敢テ一党一派ニ偏セズ現下ノ党弊ヲ打破シ憲政有終ノ至誠ヲ致サント欲ス同憂ノ諸君ハ須々來リ會セヨ

決 議

- 一、貴族院ノ組織並ニ權限ニ對シ根本的の改革ヲ舉ゲ民衆政治ヲ阻害スル一切ノ要素ヲ除去スベシ
- 一、税制整理ノ根本的の整理ヲ断行シ負担ノ公平ニ期スベシ
- 一、諸般ノ社会的政策立案ト中産階級以來ノ生活ノ安定ヲ期スベシ
- 一、教育ノ機會均等ヲ擴充シ形式訓一主義ヲ打破スベシ
- 一、物資ノ調和ヲ断行シ生活費ノ遞減ヲ図ルベシ
- 一、農村及漁村ノ文化的施設ヲ完備シ之レガ振興を講ズベシ

右の決議終るや大演説會に移った

●立憲青年党の演説會 [十四年七月十二日]

七月十二日 両津町に於ける立憲青年党の大会終るや同所に於て政談演説會を催ふし、豊田俊介「我等の立つ秋」 吉川大介「青年の奮起を望む」 井上義仲「文明の矛盾」 関矢孫一「普選の内容」 長谷川寛「普選運動の其後」 松井郡治「憲政會の普選及經濟政策」の題下に熱弁を振ひ一時散會後吉田屋にて面識會を兼ねたる懇親會を開き松瀬教五郎の歡迎の辭に松井、関矢、長谷川の謝辭あり夜半一時盛會裡に散會した

十三日午後八時新潟新聞記者 藤塚順次、新潟立憲青年党幹事 佐藤芳男の二人之れに加はり新穂村開盛屋にて熱弁を振ひしが、此外数カ所ありたるならんも今は明かならざれば追て掲ぐることにする

●第二十五次加藤（第二次）内閣成立 [十四年八月二日]

十四年八月二日 第二十五次加藤高明（第二次）内閣が成立した

十四年四月農商務省が農林商工の二省に分れたれば農商務大臣 高橋是清は辞表を提示し口で政友会総裁を引退し 十五日 田中義一 代って政友会総裁に就任すると共に政友会革新倶楽部合同の儀起り五月十日犬養は十八名の同志を率いて革新倶楽部を脱会して政友会に加入し同時に通信大臣を辞しければ護憲派の提携も昔日の如くならず遂に決裂して七月三十一日加藤内閣は総辞職を為せしに八月一日再び大命は加藤高明に降下したれば爰に始めて憲政会単独の第二次加藤内閣が成立した

内閣総理大臣	加藤高明	外務大臣	幣原喜十郎
内務大臣	若槻礼次郎	大蔵大臣	浜口雄幸
陸軍大臣	宇垣一成	海軍大臣	財部 彪
司法大臣	江木 翼	文部大臣	岡田良平
農林大臣	早速整爾	商工大臣	片岡直温
通信大臣	安達謙蔵	鉄道大臣	仙石 貢

●久邇宮殿下と山本悌二郎 [十四年八月十二日]

十四年八月 久邇宮殿下は佐渡御渡航遊され 山本悌二郎の別邸に御宿泊の御予定なりしを以て奏迎送の為め山本は十二日上野夜行出発十三日午後帰省した、殿下佐渡御滞在下に於ける山本の動作は十七日畑野を経て松ヶ崎学校にて有志者と懇談し 発動船にて赤泊港石塚屋旅館にて有志者と会見し 再び発動船にて午後七時小木着せし殿下の御旅館御変更の為め小木にて十八日は滞在静養し十九日殿下を奏送申上げたる後小木、羽茂、西三川、にて講話を為し新町泊り

二十日は二見、相川にて講話をなし 金泉小学校に至り有志懇談会を催ふした、始めは高千まで出向く予定なりしも殿下の御旅程御変更の為め一日延びたれば十九日午後新潟支部の評議会の関係上高千に赴くこと出来ず車を飛ばせて馬首小学校の講演会に臨み両津に一泊し二十一日汽船なかりしを以て発動船にて新潟へ渡り午後の評議会を済まして帰京した

●水野錬太郎来郡 [十四年八月二十三日]

十四年八月二十三日元文部大臣政友会顧問 水野錬太郎、政況視察として来郡の由 在京 山本悌二郎より通知ありしを以て齋藤長三は新潟に之を迎へた 水野は元石川縣知事 横山助成同伴なりしに新潟縣にて殊に地方課長見戸口魏を同行せしめたるを以て齋藤は是等の案内者として新潟より両津に渡りて新町に宿泊し二十四日は真野御陵を参拝て相川及其附近巡覽新町に帰り 二十五日は河原田より金沢、吉井を過ぎて午後五時両津より退郡した

●新潟政友倶楽部の発会式 [十四年十月五日]

本縣に於ける政友会及政友本党の両支部にては中央に於ける両党合同の遅々として進捗を見ざる状態にあるを見て其合同を促進するは地方黨員の緊密なる合同を先決問題とするにありとの立場から先ず其第一着手として今期縣会に於ける共同作戦を為すべく政友倶楽部を組織すること、なり十四年十月五日午後六時より新潟鍋茶屋に於て発會式を挙げた 会する者前上院議員 佐藤藤右衛門、前代議士 加藤知正、前代議士

木村清三郎、高橋金治郎を始め 縣會議員有志者五十名、佐藤より開会の挨拶を為し左の申合及規約を決議したる後懇親會を開いたが意氣大いに昂り頗る盛會であつた

申 合

第五十一議會ニ直面シ政局ノ前途益々多事ナラントス吾人ハ政界ノ一大勢力ヲ樹立シ以テ國民ノ期待ニ副フベク合同ノ速カニ實現センコトヲ期スト共ニ先ズ今期縣會ニ於テ協同一致縣政ノ重キニ任ズベク政友俱樂部ヲ組織ス

大正十四年十月五日

立憲政友會新潟縣支部

立憲政友本黨新潟縣支部

規約

第一条 本俱樂部ハ新潟縣政友俱樂部ト称ス

第二条 本俱樂部ハ縣政ヲ審議シ縣民ノ福利ヲ増進スルヲ以テ目的トス

第三条 本俱樂部ハ縣會議員ヲ以テ組織ス

第四条 本俱樂部ニ左ノ役員ヲ置ク

総務三名 幹事若干名 相談役若干名

但相談役ハ總會ニ於テ本會會員以外ノ者より推薦ス

第五条 本俱樂部ハ其総務を新潟市西堀通之政友會新潟縣支部内トス

●山本悌二郎の渡支 [十四年十月三十日]

佐渡政友俱樂部総裁代議士 山本悌二郎は北京に於ける支那関税特別會議視察の爲め政友會特派員として十四年十月三十日午前八時四十五分東京発にて出発した

●佐渡郡町村長会々長 [十四年十月 日]

十四年十月 日 佐渡郡二十五ヵ町村長は佐渡郡長の召集により郡役所内にて會議を開きたる席上真野村長 森鷹蔵は突如として

縣下各郡には私設町村會あり本郡にても之を設置して縣町村會及郡町村會と連絡を取り自治行政の進歩發達を図ることゝしては如何

と提議せしに一人の反対もなく満場一致にて決議し會則は次回の本會迄に郡書記にて立案せられたしと依頼して閉會した

十一月九日郡長の召集によりて再び郡役所にて會合した其際前回に於て郡書記に委託したる本郡町村會の會則を議題に供することゝなり年長者河崎村長 角坂二吉議長席に着き満場一致を以て會則を決定し直ちに會長を選舉せしに

十六点 二宮村長 齋藤長三

外九点散票 (二点の者三人一点の者三人)

●佐渡新報の發刊 [十四年十一月十日]

佐渡新聞社員 富崎五作、川島興作、石塚喜一の三人は同社を退社して十四年十一月十日佐渡新報第一号を發刊した

是より前 佐渡新聞社長 森知幾は大正三年五月死去したる後經營上の都合にて大正十七年五月迄 山本悌二郎へ其經營を委託することゝなりて山本は之を青木永太郎及本間一松等に經營せしめた、然るに社員富崎等は青木等の其經營に対する行為に横暴の癖ありとて、絶えず紛糾をつづけて居たが青木等は十四年

十月二十五日の佐渡新聞に「本紙改革の爲め本日より向ふ一週間休刊」云々の社告を發表するや富崎等「此改革といふことは發展を意味するものではなく同紙の亡滅を謀るの改革である」となして同社を退社して十一月十日佐渡新報と名付け第一号を發刊した 而して富崎等は盛んに佐渡政友會一部幹部を惡徳呼ばはりを爲して論難攻撃し延ひては山本悌二郎をも同罪なりと筆鋒を向けて責任を問ふなど中々大騒ぎをした、之を見兼ねたる某が中間に入りて斡旋交渉の結果契約を解除して新聞は山本より森家へ返戻すること、して十五年一月一日から森一郎が經營すること、なりたれば富崎等も佐渡新報は十四年二月二十九日の第四十三号限りにて廢刊すること、なつた

後 高屋次郎が昭和八年より十五年迄佐渡新報を發行したれ共 之れは富崎等の佐渡新報とは何等關係なく所謂同名異紙である

●佐渡タイムス [十四年十一月二十一日]

十四年十一月二十一日中川十右衛門は両津町に於て「佐渡タイムス」なる日刊新聞を發行したが經營八年の後 昭和十三年五月三十一日廢刊したことは其条に記してある

●秦豊助の遊説 [十四年十一月十四日]

前商工省政務次官 秦豊助、代議士 青木精一、同 武田徳三郎等は政友會の遊説隊として十四年十一月十四日午前十一時三十分両津に来着したるを以て、柴田繁、佐野忠吉等は之を出迎へ小憩の後小木町に向ひ

十四日午後小木琴平座、同夜新町新盛座

十五日午後両津橋本座、同夜新穂開盛座

にて政談演説會を催ふした (其後不明)

●政友俱樂部秋季總會 [十四年十一月二十一日]

十四年十一月二十一日午前十時より河原田遊景樓にて佐渡政友俱樂部の秋期總會を開き午前は幹部の協議にて午後一時より總會となり 名畑清次開會の挨拶を述べて高野宏策を座長に推し小杉偵二の會務報告に次で高野宏策の縣下の政党、齋藤長三の地租移讓、についての演説ありたる後、宣言決議 (共に不明) の可決ありたる後役員を選定して三時宴会に移りしが出席約百名であつた

総裁 山本悌二郎

顧問 本間一松 青木永太郎

総務 齋藤長三 河原治一 伊藤龜太郎

中川熊藏 名畑清次 高野宏策

幹事長 中川十右衛門

●佐渡立憲青年黨の幹部會 [十四年十一月二十一日]

佐渡立憲青年黨は十四年十一月二十一日午前十時より新町吉田屋旅館に幹部會を開き 松瀬教五郎、塚原徹、其他出席し過般金沢市に於ける北國立憲青年黨幹部會に代表出席した松瀬より経過報告ありたる後二三協議事項について意見の交換を爲し三時散會した

●立憲農民黨組織 [十四年十一月二十七日] 05

北日本農民聯合會が主唱した立憲農民黨の組織は十四年十一月二十七日午前十一時より新潟市瓦町二番町如来寺に開き佐渡、西蒲原、中蒲原、北蒲原、岩船の各郡の幹部百余名出席して農民黨創立に関する協議

を為したる後、須貝快夫は「農民運動の真意義と農民党組織の急」なるを説き、互いに「無産政党と農民政党の口解についての所見」を開陳し、次に各郡理事の状勢報告ありて北日本立憲農民党の組織に決し、顧問弁護士の件、本部改造の件、等の協議があつて宣言等を決議し午後一時閉会した

北日本立憲農民党本部案

主義

一、我党は尊王愛国ノ主義ヲ奉ズ

綱領

一、立憲政治ノ光威ヲ期ス

二、農業立国ノ精神發揚ニ努メ農村文化ノ向上等農村ノ振興ヲ期ス

宣言

茲ニ立憲ノ式ヲ挙グルニ當リ我党ノ本領ヲ明カニシテ之ヲ天下ニ宣ス

一、黨員ノ人物ヲ尊重シ苟モ其行動ヲ制限セズ相互ノ理解ニヨリ協力一致以テ系統的組織ノ天下ニ鞏固ナル結束ヲナシ主義ノ公道ヲ歩ム

一、農業者ノ政治的權威ヲ確保シ政党ニ政党ヲ鞭撻シ政局ノ監視ス

是レ我党ノ本領ナリ

一、農ハ國本ノ基礎ニ立チ農村ノ振興ヲ計ル

一、重（此処不明）農村□□□ニ理解アルノ士ハ其威業ノ如何ヲ問ハズ茲ク之ヲ網羅シ

大同團結ニヨリ農村文化ノ建設ヲ期ス

一、産業隆盛ヲ計リ國家經濟ノ魁ヲ期ス

是レ我党ノ本領ナリ

●佐渡実農倶楽部の大会 [十四年十二月二十六日]

十四年十二月二十六日 畑野村大芳亭に於て佐渡実農倶楽部の秋期大会を開きたれ共其詳細は不明である

●第二十六次若槻内閣成立 [十五年十一月二十八日] 06

十五年十一月二十八日 内閣総理大臣加藤高明逝去するや、翌二十九日若槻礼次郎は推されて第二代の憲政會総裁に就任したるに後継内閣の大命は若槻に降下したれば若槻は自ら首相兼務内務大臣となり他の大臣は加藤内閣の閣僚が全部留任することゝなつて若槻内閣は三十一日に成立した

●新潟に於ける政友会と政友本党の合同 [十五年二月十一日]

憲政會の単独内閣成立するや政友会及政友本党の有志者中には政友會全盛の昔を偲び兩派合同を策する者あり 一方田中政友会総裁は床次本党総裁を訪問するなどの事ありしも十四年十二月召集の第五十期議會に於ける役員問題より不調となつてしまつたが、飽迄も合同を希望して居た本党の鳩山一郎一派は十二月二十九日 本党を脱党して同交會を組織して居たが十五年二月十一日政友会に合同した

本縣選出代議士 高橋光威等も鳩山と行動を共にせる為め本縣の政友本黨員は其態度を決定するの必要に迫られ十五年二月二日新潟支部の事務所に於て幹部會を開き協議せしに上越の鈴木義隆、高鳥順作等は合同に反対したれ共 田辺熊一を始め多数は合同を賛成するを以て政友会支部へも通知して三月十六日政友会政友本党は同時期に臨時總會を開きて合同を決定することゝして散會した

斯て政友本党は三月十六日午後三時より行形亭に於て臨時大會を開會代議士 高橋光威、縣會議員 松本弘、前代議士 田辺熊一、其他所屬代議士縣會議員黨員百余名出席し、松本弘議長席に着き開會を宣すると共に

今回中央に於て憲政党と政友本党の合同せるは甚だ不合理なるものであるから茲に縣支部は解散したいと陳ぶれば一人の異議なく満場一致賛成して可決し更に時局に鑑み政友会と合同せんとして其理由を説明せしに是亦満場一致にて可決したれば高橋光威より同人が曩に政友本党を脱党するに至った理由を述べて諒解を求め四時三十分閉会したが夫より打ち揃ふて政友会との合同大会に出席した

一方政友会にては三月十六日午後一時より支部楼上に臨時大会を開き前代議士 武田徳三郎より今回臨時大会を開きたる理由を述べて開会の挨拶と為し次で支部長山本悌二郎は

現在の中央に於ける政情を詳述したる後、政友本党が憲政会と合同したるは不合理の甚しきものなりとして其内容を陳べて、本縣に於る政友本党は之れに反して政友会に合同するに至りたるは誠に喜ばしいことである

とて之を推奨したる後 善後策に於ての打合せを為し一同合同大会に出席した 政友会及政友本党の合同大会は三月十六日午後五時より行形亭に開会して両派の合同は異議なく決定し 支部長に山本悌二郎を推挙し顧問に佐藤友右衛門、高橋光威の二人を、常任幹事に松本弘、木村清三郎、高橋金治郎、出塚郁衛、武田徳三郎、小柳口平の六人を推薦し引続き同所にて懇親会を開き和氣藹々の裡に九時散会したが出席者は二百余名であった

●立憲農民党結党式 [十五年三月二十四日]

北蒲原郡の須貝快夫は北、中、西、南の各蒲原郡と佐渡郡の各郡農民組合を糾合し十三年十二月十六年皇室中心主義、農民國家中堅主義を二大旗幟を掲げて北日本農民組合聯合会を組織し 更に十四年十一月二十七日には縣下の各種農民党を糾合して立憲農民党を組織すべく其協議会を新潟市古町二番町如来に開きて宣言、主義、綱領等を決議せしが十五年三月二十四日正午より右同所に於て結党式を挙げた、縣下〇〇農民代表百余名集まり壁頭中蒲原郡の入山利口助は立憲農民党組織の概要を述べて開会の挨拶を述べて開会の挨拶に代へ創立委員長 須貝快夫は鬼木包次郎の指名で壇上に立ち、創立の経過を述べ農民党の意義を闡明するところあり 次に宣言、主義（十四年十一月二十七日の条に出せり）綱領並に党則を決定し総理には満場一致で須貝快夫を推し常任幹事は総理の指名すること、し左の如き目的を協調すること、した

主義目的

- 一、農村教育振興
- 二、自作農〇〇奨励
- 三、生産者本位の米価調整
- 四、金納制度の促進
- 五、耕作権の確立
- 六、思想の善導

是れ実に本縣に於ける無産政党組織の嚆矢であるが本郡赤泊村の糸池弘吉が党の常任幹事となった

其後 日本農民党の結成と共に十五年十二月十日 立憲農民党を解散し改めて日本農民党新潟縣聯合会を組織し須貝が会長となったが昭和四年七月十一日須貝は病気のために死亡せしを以て玉井〇次が其後を襲ふこととなったが玉井は同年十一月十二日新潟昭和館に於て北日本民衆党と称する地方無産政党を組織し自ら執行委員長となり同時に日本農民党新潟縣聯合会を解党した

同年十二月二月 玉井は綱島正典の主宰する立憲民衆党と合同して日本民衆党を組織し声明書、綱領、党則、役員等を発表したが本郡の糸池弘吉は此時も其執行委員となつて居る

●山本悌二郎政友会総務となる [十五年三月二十七日]

十五年三月二十七日、立憲政友會の大会に於て本郡選出の山本悌二郎は田中総裁の指名にて筆頭総務となった

総務 山本悌二郎 三土忠造 山本條太郎 浜田國松
菅原 〇 前田〇平 山口恒太郎
幹事長 鳩山一郎

●佐渡タイムスの擬國會と山本悌二郎 [十五年四月二十二日]

政友会総務本郡代議士山本悌二郎は十五年四月二十二日、佐渡タイムス社主催の擬國會に出席のため同日午後の大國丸にて渡来し佐野忠吉方に小憩の後 出席し会終るや直ちに新町の別荘に赴きたるが此席を以て郡内各地巡回の希望もありたれ共 二十七日は台湾製糖会社の総会開催なりしを以て希望を充たす澤に至らず二十三日は自邸に静養し二十四日午前の佐渡丸にて両津より乗船帰京した

● 実農俱樂部春季大会 [十五年四月二十二日]

佐渡実農俱樂部にては農学博士 東郷実、九州新聞紙社長 池田康親の両代議士及新潟時事新聞社長法学士 豊岡三四平等を聘し 十五年四月二十二日午後一時より金沢村農會堂にて春季大会を開いた

宣 言

茲ニ佐渡実農俱樂部春季大会ヲ挙グルに当リ我党ノ主義本領ヲ明ラカニシテ之ヲ天下ニ宣セントス
我党ハ本ヨリ皇室中心主義ニシテ農村國家中堅主義ナリ黨員ノ人格ヲ尊重シテ苟モ其行動ヲ制限セズ相互ノ理解ニヨリ協力一致以テ系統的組織ノ天下ニ鞏固ナル結束ヲ為シ主義ノ公道ヲ歩ムナリ、現下農村ノ振興ヲ唱フル者日ニ日ニ多ケレド農村ハ却テ疲弊ノ度ヲ深メツツアルハロニ唱ヘテ行ヒニ移ラザルニヨルナリ

夫シ恰モ既成政党ノ党務擴張ノ具ニ供セントスル一種ノ下劣ナル弄策ニ過ギザルト同一線上ニ在ルモノにして我党ハ既成政党ト共ニ之ヲ擯付撲滅セントス而シテ農業者ノ政治的權威ヲ確保シ政治ヲ監視シテ農業立國ノ基礎ニ立チ農村ノ振興ヲ計ル

我党ハ産業ノ隆昌ヲ計リ國家經濟ノ魁タルノ意味ニ於テ純農民ヲ主トシテ農村ノ各種階級ハ勿論苟モ理解アルノ士ハ其成業ノ如何ヲ問ハズ悉々之ヲ網羅シ大同団結ニヨリ農村文化ノ建設ヲ期シ以テ佐渡全土ノ開發ヲ期ス是レ我党ノ本領ナリ

決 議

- 一、尊皇愛國ノ大義ニ則リ農業立國ヲ基礎トセル國策ノ樹立ヲ期ス
- 一、地方選挙権ノ徹底的擴張ヲ期ス
- 一、既成政党ノ改造ヲ促シ実農本位ノ新政党ノ成立ヲ期ス
- 一、農村民ノ政治的自覚ヲ期ス
- 一、労資ノ強調ヲ計リ小作争議ノ防止ニ努ム

●水谷松次の政友会脱党 [十五年五月]

十五年五月 県道編入問題で政黨員の離散集合は多かつたが郡政友俱樂部の幹部なる水谷松次も自村の横宿線を県道に編入するには縣會に於ける多数党の憲政會に加入せざれば目的を達する能はずとの部落民衆に迫られ心ならずも地方問題の爲めに政友會を脱党して憲政會に入会したれ共 後又政友會に復歸した

●青木永太郎の脱党 [十五年五月三十日]

青木永太郎は佐渡商船株式会社の社長就任中同社の決算に於て五千数百円損失を生じせしめしを頗る遺憾となし 夫が為め政党政派の関係は一切之を断ち専ら実業に従事して之れが恢復策を献身的に講じたしとの意志より十五年五月三十日政友会脱党の届書を本間一松へ提出したるを以て郡政友倶楽部にては急遽幹部會を開いて種々協議の結果本間を始め齋藤長三、高橋耕策、名畑清次等打揃ふて青木を訪問し極力留党を勧告したれ共 其意志を翻す様なきを以て総裁 山本悌二郎へ申送り同人より書状を以て慰諭せしめ更に前記の人々は再び青木と会見し種々意見の交換を為し漸くに翻意せしめた

●郡吏惜別会 [十五年六月十九日]

郡制廃止により郡會議員の選挙も大正八年九月三十日第八回の選挙を以て最終となり郡役所も十五年二月限り廃止せらるゝことなりたるを以て時の郡町村長会々長たる二宮村 齋藤長三は其会の決議を以て六月十九日金沢村農會堂に於て郡長以下左記の総吏員を招待して惜別の宴を催ふし記念として純銀製洋盃一對づつを贈り一般会員は会費一円五十銭とせしに町村役場、各種実業団体其他有志者の参会者多く余興としては川辺時三の薩摩琵琶の演奏を始め各地郷土芸術の寄付申出も多く出席者百十余名、主催者たる齋藤の挨拶に次で二三の惜別演説あり中村郡長の謝辞に引続き記念品の贈呈を終り宴に移り席上数人の感慨を量なる演説あり 其間種々の余興と紅録の幹旋等にて各自十二分の歡を尽し非常なる盛会裡に散会した

郡長 中村藤作

郡書記 本間多平、杵渕恒彦、金子五郎、鈴木悌次、井口源太郎、原田稔、安藤喬、
石井餐式、山田礼治、

郡視学 西山與八郎

産業職員 更級哲次、佐藤源五郎、津谷角五郎、立川算法、吉沢吉裕、本間新一、
外十七名

贈呈

一、純金製洋盃 壹對

郡役所廃止記念

大正十五年七月一日

佐渡郡有志総代

佐渡郡町村会会長

二宮村長 齋藤長三

元佐渡郡長中村藤作殿

●鈴木義隆等政友本党新潟支部を組織す [十五年九月二十二日]

上越の鈴木義隆、高鳥順作等は政友本党の政友会に合同するに反対して本党に残留し居たりしが政友本党新潟縣支部を組織し其発會式を十五年九月二十二日新潟にて挙行し支部長に高鳥順作、顧問に鈴木義隆、相談役に上田良平、石塚讓、阿部讓、等を挙げ新潟市下旭町に事務所を設けたれ共 我が佐渡よりは此本党へはひとりの加入者もなかった

●政友倶楽部の秋季總會 [十五年十月十一日]

佐渡政友倶楽部にては十五年十月十一日午前十時三十分より総裁 山本悌二郎を迎へ新町新盛座に於て秋期總會を開きしに出席者約二百名 高野宏策開會を宣し 本間一松を座長に推し議事に入り左記の宣言、決議を満場一致可決確定し引つづき役員の改選に入り左記の通り決定した

次に山本総裁は徐ろに登壇し 先ず現内閣の政策の行詰れる点を一々指摘して消極退嬰政策の最早一日も持続すべからざるを説き更に朴烈問題に言及し

朴烈並に文子が日本國民として一点仮供すべからざる天人共に許さざる大逆罪を犯したるもので大審院が何等情状酌量の余地なしとして死刑の宣告を興へたるは当然の次第である、然るに宣言後幾日ならずして減刑の恩典に浴せしむるの事を聞き容易ならざる事柄であるとなし小川平吉君をして首相を訪問せしめ、断じてサル輕拳妄動を警めたが時は已に遅くして政府は減刑奏清の事を敢てしたと、其発端より説き起し政友会は當時に於ては其不当を認めながらも裁判の進行並に犯人の行状等真想につき材料の蒐集に困難を感じる為め之を議場に於て糾弾せんと欲し材料蒐集に努力中俣々怪写真事件の勃発せるを説き、当時怪写真なるものを見たる者は何人も其偽物なることを信ぜんとしたが立松予審判事自ら之を撮影せるものなることを知るに及んで茫然自失せざるものはなかつたと、余りに其写真の奇怪なるを暗示し更に問題の中心は其後減刑奏清の無責任に移れるを説き、幾十の各種思想団体が奮起し更に帝國弁護士協會其他法曹団体の奮起の様態を詳細に談じ

最後に夫れに対する政友会の演説の盛況と憲政會の對抗演説會が非常の失敗を論じたる実状を披瀝し秋内閣の余数口に迫れりと断じて降壇した

夫より山本総裁の下に天皇皇后兩陛下並に佐渡政友倶楽部の萬歳を三唱し、本間一松の閉会の辞を以て一時三十分散会した

宣 言

現内閣ノ執政以來日輪ノ転ズル度公事日ニ非ナルノ國民ノ等シク認メテ疑ハザル度、外交ハ定見ヲ欠キテ叩頭追従ヲ是レ事トシ、帝國ノ前途ニ最モ重大ナル利害ヲ有スル對支國策ノ如キ國勢發展上憂慮之ヲ久シウセザル可ラザルモノアリ、内政ハ機宜ヲ誤レル消極退嬰政策ノタメ産業ハ不振ヲ招キ國民生活ヲ軋ツテ窮迫ノ深淵ニ沈淪セシメ、思想ノ悪化日ニ増加シテ階級鬭争ノ深刻化スルハ未ダ今日ノ如キヲ見ズ、若シ夫レ最近ノ問題タル朴烈事件ニ至リテハ官紀ノ弛緩ヲ暴露シ法權ノ威信ヲ失墜シ輔弼ノ重任ヲ誤レルモノトシテ天人共ニ責ヲ問フテ急アルモノアルニ抑ラズ、堅白異同、牽強附会ノ弁ヲ弄シテ敢テ責ヲ負フノ良心ナク反テ議會解散ノ脅威ヲ武器トシテ國民ニ反省サセントス何ノ状態ゾ其不信不義ハ無為無能ト相併セテ一刻モ憲政ノ重キニ任セシムルヲ許サズ、吾人ハ速ニ之ヲ倒壞シテ擁天蔽日ノ政局ヲ打開シ以テ國本ノ基礎ヲ鞏固ナラシメ國民生活ノ安定ヲ期セザル可ラズ敢テ宣ス

決 議

- 一、産業立國ノ大策ニ則リ積極的施設ヲ確立シ以テ國民生活ノ安定ヲ期ス
- 二、逆徒朴烈事件ニ関シ輔弼ノ重責ヲ誤リタル現内閣ノ倒壞ヲ期ス

役 員

總裁 山本悌二郎

顧問 本間一松、齋藤長三

總務 河原治一、名畑清次、伊藤龜太郎、高野宏策、仲川十左衛門、本間瀬平

幹事長 名畑清次

相談役 渡部八十八、村岡幸藏、北条欽、神主甚太郎、鳥井嘉藏、渡藤五郎右衛門

平田泰藏、森鷹藏、嵐城治作、臼杵寿八、古城哲太郎、葛原吾市、碁石仁之助

甲斐二十四郎、須藤茂三郎、佐藤角藏、柴田繁、矢部茂作

幹事 平越茂三郎、金田音松、青野泰助、坂野普次郎、本間俊太郎、丹保茂作

榎武右衛門、後藤善次、木下永藏、小杉源右衛門、本間茂太郎、三浦弘太郎

本間乙吉、村川九一郎、本間綱次郎、椎龜次、丸家良藏、菊池作太郎、本間弘

午後二時より新町行形亭に於て懇親会を開いた、本間一松の開會の挨拶に次で児玉竜太郎は時局問題に付現内閣の秕政を論難し更に山本悌二郎の挨拶ありし後散会した

十一日午後七時より新町新盛座に於て政談演説会を開き、山本、本間、齋藤、高野、児玉等の弁士は各熱弁を振り大盛況を呈したが十時散会した

因みに山本は十日に渡海し十一日午前より倶楽部大会、午後四時相川に至り、夜は新町の演説会、十二日午前の第八佐渡丸で帰途についた

●大正天皇崩御 [十五年十二月二十五日]

大正天皇は已に久しく御不例に亘らせられ 大正十年十二月十五日皇太子裕仁親王摂政に御就き遊ばされた、國を挙げて御平癒を神仏に祈祷し奏った其甲斐もあらせられず十二月二十五日神去り給ふた 即日御踐祚あらせられ昭和と改元になった

昭和十八年十一月

(非売品)

新潟縣佐渡郡二宮村大字石田八十四番戸

齋藤長三